

まちづくり懇談会内容【公開用】

日 時：令和 2 年 11 月 7 日（土）18：30～20：04

場 所：鳩山中央公民館

出席者：15 人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配布資料確認および日程説明

3. これからのまちづくり（資料 1 参照）

- ・栗山赤十字病院の改築について

4. 懇談

5. その他（情報提供）

（1）光回線の全面開通について

（2）栗山高等学校と介護福祉学校の状況について

（3）新型コロナウイルス感染症対策について（資料 2 参照）

- ・町民の皆さんへ新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援一覧（資料 2－1 参照）

- ・事業者の皆さんへ新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援一覧（資料 2－2 参照）

- ・新型コロナウイルス感染症の影響に伴う国民健康保険税・介護保険料・後期高齢者医療保険料の減免について（資料 2－3 参照）

（4）空き家の情報提供について

6. 閉会

《懇談内容》

【栗山赤十字病院の改築について】

町民：コロナがステージ 3 に引き上げられている中、今回まちづくり懇談会を開いていただき、ありがとうございます。今回、栗山赤十字病院を建て替えていただけることに感謝している。建て替えのことで耐震化問題の話があった。建て替えるときに耐震よりも免震の建物にできないか。旭川赤十字病院の建物は免震の病院だった。テレビなどでも免震の建物が地震に強いといったことを聞いた。石巻赤十字病院が東日本大震災の中で周囲が倒壊していたにもかかわらず病院が残っていたが、石巻赤十字病院も免震の建物だった。これから大きな地震が来ることも予想されるので、病院の建設には、そういった建築を検討していくことが必要ではないか。

町長：栗山赤十字病院の建設費 48 億円の中に、免震装置は含まれていない。いろいろ調べていき、免震構造を入れたほうが良いとなれば導入を検討したい。ただ、免震装置はかなり高額に

なる。旭川赤十字病院のような大きな建物ではなく、改築後の栗山赤十字病院は3階建てになる。免震装置が必要かどうかも含めて検討していく。

町民：私は、かかりつけ病院が板垣医院だが、一人暮らしなのでもしコロナになった時、いったいどこへ行けばいいのか不安。栗山町のコロナに対する体制はどうかお聞かせいただきたい。

町長：来週から栗山赤十字病院でコロナの検査ができるようになる。担当から説明する。

日赤改築室長：栗山赤十字病院に来週から発熱外来ができる。発熱や味覚症状などの症状があるなど、コロナが疑われるときは、栗山赤十字病院へ午前のうちに電話をしていただいて予約し、午後から受診していただくことになる。検査が必要であれば、抗原検査を受けることができる。発熱などの症状が出た場合、まずは電話で連絡いただきたい。もし、検査の結果、陽性となった場合は、栗山赤十字病院から連絡があり、岩見沢市立病院への入院となる。岩見沢市立病院のベッドが満床であれば、札幌市内のホテルで療養になることもある。個人的に検査を受ける場合は、65歳以上であれば、国や町から検査費用の補助が受けられる。まずは電話での予約になる。

町民：もし陽性になったら、岩見沢保健所の指示で、どこに連れて行かれるかわからないということか。

日赤改築室長：基本的には岩見沢市立病院になると思う。一人暮らしであれば、自宅療養ということもあるが、症状にもよる。

町長：東京などの出張から帰ってきて、家族に感染させてしまわないか心配という人のために、町の使っていない住宅を隔離住宅として貸し出して活用している。

町民：改築後の栗山赤十字病院は延べ面積 7200 m²と書いてあるが、現状の栗山赤十字病院の面積はどの程度か。

町長：今の栗山赤十字病院は、敷地面積 15000 m²に延べ床面積 8700 m²の病院が建っている。今の病院の南側に 7200 m²の建物が建てられる土地がある。建設後に移動して既存の病院を解体することになる。病院は休まないで建て替えることになる。

町長：他の会場で意見として出ているのが、診療科。一番多いのが、整形外科の午後診療の意見が多い。午後は手術や入院患者の治療をしているので、午後診療するのであれば、医師の確保が必要になる。また、眼科や皮膚科、泌尿器科などは週1回なので、タイミングを逃すと診察できないということになるので、週2回以上にしてほしいという意見もある。また、診療科を減らして他の町との連携をしてはどうかといった意見もあった。これから検討委員会などでいろいろな意見を聞いて検討していきたい。

《質疑応答》

【その他（情報提供）】

町民：空き家バンク制度のことで、知人が空き家を探していたが、市街地ではなく、土地の広い農村地域がいいと言っていた。町に相談をしたところ、不動産業者などの話もあり、なかなか紹介は難しいという話だった。空き家バンク制度と不動産業者との重複などで問題はないのか。

副町長：空き家バンク制度は、まず空き家所有者が登録することが前提になる。登録がない事には借りたい方に対する情報提供もできない。不動産業者など専門家が入ることで売買などスムーズになるかと思う。不動産業者にも情報提供はさせていただく。農村地域の不動産は地域的

な問題もあるので、地域の皆さんにも理解してもらったうえでということになる。

町長：町が行っている空き家バンク制度は、不動産業者とも連携して行っているの、安心していただきたい。

町民：商店街でまちなかレストランをやっているが、町がお金を出して行く意味があるのか。地域おこし協力隊でレストランを作ろうとしているが、個人で飲食店を経営している人に対して町は支援しないのに、地域おこし協力隊のレストランに町が支援するというのはおかしいと思う。

副町長：まちなかレストランは、くりとくらという法人が経営している。町が支援しているのは、日替わりで料理を提供したい人に対して支援をしている。商店街の空き店舗を活用して、日替わりシェフが開業できるような取り組みに対する支援になる。また、まちなかレストランの運営として、地域おこし協力隊を採用したのであって、地域おこし協力隊が店を出すことを支援しているということではない。

町長：地域おこし協力隊に町が肩入れしすぎているのではないかといった話は他の会場でもあった。駅前の空き店舗の活性化対策として、国の制度を活用して開業できるように連携してやっていきたいと考えている。

町民：議会だよりの、まちづくり協議会のことで、農村地域のまちづくり協議会の取り組みが難しいといった話だった。災害が起きた時に備えたまちづくり協議会の取り組みが難しいことに対して、町はどのように考えているのか。今後の展望などあればお聞かせ願いたい。

まちづくり総括：まちづくり協議会は、本来、栗山町全域で計画しているが、密集している地域での活動が多い。農村地域などの広い地域で一緒になっての活動は行えていない。まちづくり協議会とは別に防災に関する活動も考えていかなければならない。

まちづくり総括：コロナ禍の影響もあり、今年は活動ができていない。まちづくり協議会の当初の目的もうまく引き継がれていない。はじめは防災意識の向上が目的であった。地域同士が一緒になり、活動していくようなことも考えていきたい。今は停滞気味ではあるが、コロナ禍に対応した協議会の運営を今後は検討していきたい。

町長：防災をきっかけにはじまったが、防災ばかりの話ではない。これからの少子高齢化に向けて、町内会規模ではなく、まちづくり協議会規模での組織づくりも必要だと考えている。今後もそういった考えで進めていきたい。

町長：鳩山地区の話題として、鳩山議員のレストランの話もあった。レストランを町で運営するのは難しい。鳩山レストランのことを鳩山議員にお聞きしたところ、ご自身で運営するという話を聞いた。しかし、コロナの影響で、その後の話は出ていない。上京した時に、鳩山議員にお会いして話をしたいと思う。

町民：栗山赤十字病院建築後、診療費の負担額が増えるといったことはないのか。

町長：診療報酬は保険もあるので、改築費を上乗せすることはない。ただ、建設してから経営の部分で、町から多額の補助金が増えるのではないかという話は他の会場でもあった。今、町から栗山赤十字病院に対して約1億円の補助をしている。補助の内訳としては、救急告示病院と不採算診療としての補助。約1億円のうち、国から8割の補助があり、実際は2000万円支出している。

町長：救急での栗山赤十字病院の対応の悪さも聞いている。ただ、救急で軽症患者も多い。町民の皆さんにもご理解とご協力をお願いしたい。

20 : 04 終了